

国立大学法人福岡教育大学 令和4年度完了報告書

令和4年度「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方」に関する調査研究の完了報告書を次のとおり提出します。

1. 調査研究概要

本校の教育目標である「創造的実践人の育成」を達成するために、北九州市・関連行政機関及び企業等との連携を基盤に据え、子ども一人ひとりが学校を超えた市民としての真正な課題解決を志向したプロジェクト学習を方法原理として位置づけて、カリキュラム・マネジメント実践を行った。

調査研究の成果として、企業・行政と連携したプロジェクト型学習を生徒主体で進めていくことで、予測困難な社会に挑戦していくことになる子どもたちに必要な「新しい力」を育成する上で一定の効果があることがわかった。「教科等横断的な視点」で課題解決にあたることはごく必要な過程であり、また、よりよい課題解決のためには、教師はもちろん生徒自身も学びを計画、評価、改善せねばならない。その試行錯誤の過程により、カリキュラム・マネジメントにおける学習の効果が高まることがわかった。

今後は生徒にとっての真正性をさらに高めることでより学習効果の高まりや、これからの学び方、生き方により影響を及ぼすことを期待して研究を継承、発展させていきたい。

(実践地域における年間実施スケジュール)

月	取組内容
4月	令和4年度研究方針等の周知
5月	理論研究、職員研修会（学校の教育目標、ビジョンの共有） 調査研究連絡協議会
6月	7月実践に向けた教科等横断カリキュラム開発 理論研究、職員研修会 研究成果活用による他校・サークル等への職員研修協力
7月	実践による検証

	生徒実態アンケート実施 研究成果活用による他校・サークル等への職員研修協力 職員研修会
8月	全国学力学習状況調査生徒質問紙結果分析 卒業生への追跡調査実施 職員研修会 研究成果活用による他校・サークル等への職員研修協力
9月	各教科等を基盤とした教科等横断カリキュラムの開発と実践、検証
10月	各教科等を基盤とした教科等横断カリキュラムの開発と実践、検証 調査研究実地調査 カリキュラム・マネジメント検討会議
11月	各教科等を基盤とした教科等横断カリキュラムの開発と実践、検証 2月実施研究成果報告会に向けた教科等横断カリキュラム開発 関連学会・研究会等参加、他校視察、実践交流等
12月	本校OBの先生方による指導、助言 カリキュラム・マネジメント検討会議
1月	「カリキュラム・マネジメントの手引き vol.2」原稿入稿 2月研究成果報告会における実践の開始
2月	本研究の成果と課題の析出 研究完了報告書作成 研究成果報告会(2年生での授業公開) 「カリキュラム・マネジメントの手引き vol.2」の発行(PDF公開)、配付(管内中学校、県・市町村教育委員会等) 令和5年度年間指導計画完成
3月	令和5年度に向けた年間指導計画の修正 ※マネジメントモデルによる検討 研究完了報告書提出(文部科学省) 令和5年度研究計画の策定

2. 調査研究の内容

<p>(1) 研究テーマ</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> a 学校の教育目標等(目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など)の設定及び実現に向けた研究</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究</p> <p>(2) 調査研究の内容 別葉参照</p> <p>(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策 別葉参照</p>

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	令和4年度研究方針等の周知
5月	理論研究 職員研修会(学校の教育目標、ビジョンの共有) 調査研究連絡協議会
6月	7月実践に向けた教科等横断カリキュラム開発 理論研究 職員研修会 研究成果活用による他校・サークル等への職員研修協力
7月	実践による検証 生徒実態アンケート実施 研究成果活用による他校・サークル等への職員研修協力 職員研修会
8月	全国学力学習状況調査生徒質問紙結果分析 卒業生への追跡調査実施 職員研修会 研究成果活用による他校・サークル等への職員研修協力
9月	各教科等を基盤とした教科等横断カリキュラムの開発と実践、検証
10月	各教科等を基盤とした教科等横断カリキュラムの開発と実践、検証 調査研究実地調査 カリキュラム・マネジメント検討会議
11月	各教科等を基盤とした教科等横断カリキュラムの開発と実践、検証 2月実施研究成果報告会に向けた教科等横断カリキュラム開発 関連学会・研究会等参加、他校視察、実践交流等
12月	本校OBの先生方による指導、助言 カリキュラム・マネジメント検討会議
1月	「カリキュラム・マネジメントの手引き vol.2」原稿入稿 2月研究成果報告会における実践の開始
2月	本研究の成果と課題の析出 研究完了報告書作成 研究成果報告会(2年生での授業公開) 「カリキュラム・マネジメントの手引き vol.2」の発行(PDF公開)、配付(管内中学校、県・市町村教育委員会等) 令和5年度年間指導計画完成
3月	令和5年度に向けた年間指導計画の修正 ※マネジメントモデルによる検討 研究完了報告書提出(文部科学省) 令和5年度研究計画の策定

3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

(○：成果 ●：課題)

○プロジェクト型学習、企業・行政との連携、生徒主体の学びづくりを位置づけたカリキュラム・マネジメントに、予測困難な社会に挑戦していくことになる子どもたちに必要な「新しい力」を育成する上で一定の効果があることがわかった。

○企業・行政と連携したプロジェクト型学習を生徒主体で進めていくことで、生徒は目の前にある「現実社会に挑戦する課題」に対して、「学ぶべきは自分である」「解決すべきは自分である」という当事者意識を持って取り組むことが可能になった。

○「教科等横断的な視点」で課題解決にあたるのが生徒にとってもごく自然な流れとして、学習を進めることができた。

○よりよい課題解決のためには、教師はもちろん生徒自身も学びを計画、評価、改善する必要があり、その試行錯誤の過程により、カリキュラム・マネジメントにおける学習の効果が高まった。

●探究課題としてパフォーマンス課題を見直したときに、どこまで生徒にとって真正性があったかという点を課題として挙げる。改善方策として、生徒が自ら探究課題を設定できるよう、小学校と連携しながら段階を踏んでいくことも視野に入れて考えたい。また、総合的な学習の時間の効果的な運用についても研究を進めていきたい。

4. 参考資料

【必須】

①実践地域の取組の概要が分かるもの

②カリキュラム・マネジメント検討会議の資料

※ 2年目は①実践地域の取組の概要が分かるものに代わり、カリキュラム・マネジメントの展開に資する手引きを提出すること。

【任意】

- ・各種アンケート結果
- ・その他 参考となる資料